

# あゆみ通信

VOL. 184

あゆみの会(真宗大谷派大阪教区第2組同朋の会推進員連絡協議会) 会長 細川 克彦 広報 本持 喜康

## 俱会一処



私たちに  
とって  
愛する人  
との別離  
ほど悲し  
いことは  
ありませ  
ん。だか  
らもう一  
度会いた  
いと、再  
会を期せ  
ずにはい  
られない  
のです。この  
悲しみの  
さなかで  
は「俱会  
一処」と  
言う一語  
には心魅  
かれるも  
のがあり  
ます。引  
き離され  
たものが  
一処であ  
えると言  
う『阿弥  
陀経』に  
ある釈尊  
の言葉で  
す。ただ、  
忘れては  
ならない  
のは阿弥  
陀の浄土  
において  
成り立つ  
出会いの  
真実を説  
かれた言  
葉です。愛  
する人との  
再会も、  
仏の世界  
(お浄土)  
で一と言  
うことです。  
今ここに  
「私」が  
死すれば、  
万人等  
しく俱会  
一処する  
阿弥陀の  
浄土(無  
量光明土)  
に生まれ  
るので  
す。

浄土とは死後の霊界ではありません。大悲の智慧がフル回転して止まぬ光明世界なのです。その光明世界に生まれるというのは、我らの人知がいかにかんがっているかに気付かされる「人生の死」の一点にあったのです。この一点が、娑婆の終り、浄土の始まりだと言っていていいと思います。この動きを「往生の信心」と申すのでしよう。(中略)

亡き人との再会を求める我が思いの不真実さを知らされるところ、がくつとくるショックが、転換の軸になるのです。「智慧の念仏」に照らし出された「信心の智慧」とは、まさしくこのことでありました。

(近田昭夫「2012年真宗の生活」から引用)

## 第2組聞法会

日時 8月5日(月) 14:00  
会場 光照寺(天王寺区上汐)  
内容 「初めての正信念仏偈」をたずねます。

講師 宮部 渡先生  
(第15組 西稱寺住職)  
教材「初めての正信念仏偈」をご持参ください。お持ちでない方は、当日、お渡しします

参加費 500円

## ご案内 門徒会合同研修会

2013年から門徒会員研修大会とあゆみの会例会を初めて合同で開催することに、門徒会と話し合い、以来継続されて定着しています。

今回は、本願寺「相伝」に焦点をあてて、下記の通り開催させていただきます。体調の許されます皆様のご参加をお待ちしています。(別途、ご案内します)

日時 9月17日(火) 13:30  
会場 宗恩寺(天王寺区四天王寺)  
講題 本願寺「相伝」に学ぶ  
講師 池田英二郎先生

(第2組副組長、宗恩寺住職)  
参加費 無料

## 朋友会と合同研修会を開催



2024年6月25日(火) 午後1時30分から、天王寺区の佛足寺(清水拓住職)で、次世代を担う青年僧の朋友会と合同の研修会を開催、併せて14名が参加し

## 親鸞のことば

海に入れば  
すべてひとしくなる

ほんしょうぎやくほう えにゆう  
凡聖 逆謗ひとしく回入  
すれば 衆水 海入りて  
一味なるがごとし 正信偈

「凡聖」とは、凡夫と聖者のこと。「逆謗」とはひどい罪を犯した者や仏法をそしる者のことです。親鸞は、阿弥陀さまの本願の分け隔ての救いを、海にたとえて讃えています。

海には汚れた水も澄んだ水も流れ込み、それらは必ず一つの塩味ととなります。本願もこのような海の性質と同様に、どんな人間も平等に受け入れ、さとりを得させるのです。このはたらきを「必然(人を必ず仏にさせる)」と言います。また、どんな人も救うと言う本願のはたらきが変わったり、衰えたりしないことを「不改(はたらきが改まらない)」と言います。このような本願の海があなたには用意されているのです。

(名古屋別院監修「人生を照らす親鸞の言葉」より)

## 自ら己の能を思量せよ

法話でお聞きした言葉です。善尊大師が『往生礼讃』の文に「仰ぎ願わくは、一切往生人等、善く自ら己か能を思量せよ」とあります。これは首領導師の「己か能を思量せよ」を受け継がれてのお言葉だと。親鸞聖人も『教行信証』化身土巻にこの言葉を引かれています。

どう理解するのでしょうか。人間関係の中で、俺の能力はこれぐらいだ、自分の力にあった道を選べと言うことなのでしょうかね。

宮城野先生はそうではないと。親鸞聖人は、「絶対的な仏に照らして、わか身の事実を知れ。教にこよって照らし出された己か身の事実を知れ」と言うことだと。

そこには私どもにもあるかさまの教えがあり、そういう私に伝えてくださる教えだと。聞か第一。痛感します。(本)

